

市職員共済から4千万円

生活保護不正支給事件の返還金5800万円、寄付集まらず穴埋めに充当

9月28日の市議会全員協議会で、かねてからの懸案事項である「生活保護不正支給事件」の返還金についての報告がありました。厚生労働省から「不適正な支給」であるとして返還を求められた、5849万8321円の処理の方法として、職員からの寄付金と川岸市長の減給分を合わせても1873万円にしかならず、あとの約4000万円を鈴鹿市職員共済組合の積立金からの「寄付」として充当する案が、市側から提示されました。（別表）

市から補助金を受けている団体が「寄付」とは？

市職員共済組合は、職員の福利厚生のための団体で、市から年3000万円ほどの補助金を受けています。また課長級の職員1名が専任で組合の仕事をしていて、その人件費1千万円も、実質的な補助金です。組合保有の積立金が1億6千万円もあり、そこから今回4千万円を

不正支給返還金の総額	58,498,321円
寄付金（関係職員18人）	6,352,074円
寄付金（一般管理職等238人）	10,586,727円
市長減給10%1年分	1,796,484円
合計 + +	18,735,285円
市共済組合の「寄付」	39,763,036円

引き出して、市に「寄付」としてしています。この積立金は、以前にあった職員保養所の建て替えや、新庁舎に食堂を設置するための費用だったのですが、どちらも実行しなかったのが宙に浮いていたものです。2面に続く

市長は「市民に迷惑かけない」 「私の責任で」と約束したはず

私は次の点を市側にただしました。 共済組合は市から補助金だけでなく専任職員が業務についているなどをみれば、「市の金は使わず、職員の組合費を充てて寄付金にした」と言うのはムリがある。 積立金の財源はどこから来たのか、証明する資料を提示しなければ、公費が入っていないと判断できない。 事件と無関係な消防や保育所の職員のお金も入っている共済組合を利用するという解決の仕方では、今回の事件の責任問題がうやむやになり、「ズサンで無責任」と指摘された体質が変わらないではないか。

市側からはどの点についても、スッキリした答えはありませんでした。他の議員からも、「職員の寄付を集める努力がされたのか。最初から共済組合をアテにしていたのではないか。」「こんな内容で市民の納得が得られると考えているのか。」「市長、副市長がもっと多く出すべきだ。」など、きびしい意見が続出しました。私は最後に「今日は市側の説明を聞いたが、議会として了解したことにはならない。さらにこの問題の議論を行なうこと」を議長に念押ししました。

可燃ごみの焼却灰、はるばる九州へ

鈴鹿市の清掃センターから出る焼却灰を溶融処理していた、県の廃棄物処理センターが破たんし、来年度から受け入れ出来なくなることを受けて、次の行く先を検討してきた協議会（関係市町で構成）が、処理委託先の民間事業所と処理量を次のように決定しました。

太平洋セメント(株)[大分県]2900トン 三池精錬(株)[福岡県]3100トン
三重中央開発(株)[伊賀市]1500トン 合計 年間7500トン

なんと処理量の8割もの灰が、はるばる九州まで運ばれることになるのです。運搬方法は、灰を10トンコンテナに詰めてJR四日市駅に陸送し、そこからJR貨物で熊本駅、西大分駅まで輸送、さらに駅から工場まで陸送する、とのこと。津市や四日市市なども同様の方式にするため、JRは三重県の灰輸送のためのダイヤ改定をするそうです。

さらに驚くのは、このような手間をかけても、処理費用は今の県廃棄物処理センターより1割以上安くなるということです。いかに県のゴミ処理計画がいい加減だったか、あらためて怒りを感じます。

老朽保育所の建て替え計画がない

9月議会一般質問で、市立保育所の建て替えについてたどしました。10ヶ所ある鈴鹿市の保育所は、ほとんどが昭和40年代から50年代にかけて建てられたもので、いちばん新しい牧田保育所でも昭和63年建設、平成に入ってから1園も新築されていません。やっと今年、河曲保育所（昭和49年建設）の新築工事が行なわれていますが、「次」の予定は立っていません。

築41年の玉垣、築35年の算所を、一刻も早く

特に老朽化がはげしいと言われる玉垣保育所（昭和44年建設）、算所保育所（昭和50年建設）は、昨年耐震補強工事が行なわれましたが、それも「倒れないように」最低限の工事をしただけです。どちらも定員150人いっぱい0～5歳の児童を預かっていて、子どもがひしめいています。遊戯室は保育室に転用、職員室は狭くて保育士さんが半分も入れません。



外から耐震工事をした玉垣保育所

ここで現代の保育ニーズに合った保育をと頑張っている現場の苦労は、大変なものです。

私は、教育委員会が学校施設の建設計画をきちんと持って進めているように、保育所も改築計画を立てていくことを求めました。保健福祉部長は「老朽化が著しく緊急性が高い保育所は、玉垣保育所と算所保育所と認識いたしております。」と答え、「建て替えは移設の手法となるので、用地確保を最優先に取り組みたい」と前向きな姿勢を示しました。私は、河曲保育所完成から間をおかず、連続して建設に取り組むことを求めました。



調理室も年季が入っています

11月21日 坂本龍馬ゆかりの伏見・寺田屋を訪ねます

恒例の鈴鹿市後援会・秋のバス旅行、今回は京都方面です。世界遺産・宇治の平等院、伏見の寺田屋と清酒月桂冠などを巡ります。(参加費5500円) ごいっしょに出かけましょう!

ずいそう



雑草のたくましい生き方

今年のわが水田のコメの出来は、ひじょうに悪かった。異常な「猛暑」に加えて、稲の間に雑草がはびこったのが原因である。6月ごろに草取りの手間を惜しんだのがたたり、稲刈り時にはもう稲よりも大きく伸びて、コンバインの手前の草引きに追われてクタクタになった。また、畦の草も、刈っても刈ってもすぐに伸びて、何度も大汗をかいた。まことに百姓の仕事の大半は、草とのたたかいであり、草は百姓の憎き敵だとさえ思った。

逆境の中を強く生き抜く術を、雑草に学ぶ

そんな私の思いとは反対に、農学博士で「道草研究家」の稲垣栄洋さんは、雑草の生き様から人生を教えられる、雑草こそ人生の師であると言う。著書「身近な雑草のゆかいな生き方」を読むと、目からウロコである。

雑草は本当は弱い植物であるが、条件の悪い環境下でも生き残る戦略を持っている。例えば、西洋タンポポに追いやられているかに見える在来タンポポ。実は「夏眠」といって、在来タンポポは夏になると葉っぱを枯らして根っこだけで過ごす。他の草が茂る季節は夏眠して、他の草が枯れる秋から冬に葉っぱを広げ、春に花を咲かせる。これが在来タンポポの戦略なのである。

ゴルフ場の雑草として知られるスズメノカタビラは、生える場所によって穂をつける高さを変える。芝刈りが頻繁なグリーンでは低く、ティではやや高く、フェアウェイ、ラフではさらに高く、というように。

畑の雑草ナズナは、いつ耕されたり除草剤を撒かれるか分からない環境に対応して、発芽の時期を春、夏、秋にずらして危険分散を図っている。地面の下では膨大な量の種子が眠っていて、少しずつ波状攻撃を仕掛けるという戦略である。

道に生える雑草オオバコは、人々に踏まれることによって生存している。他の植物が踏まれてダウンしても、オオバコは葉も茎も耐えるように出来ている。「他の植物との争いを避け、苦境に身を置いて自らを鍛え上げていく。それがオオバコの生き方である。」

このように稲垣さんは雑草それぞれの生き様を見て、そのたくましさ、ひたむきさに心打たれ、そして人生を考えるのである。